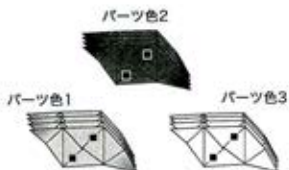




12ユニットくす玉

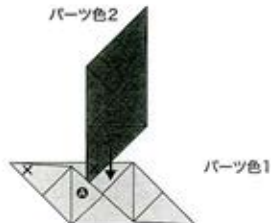
伝承の作品ですが、12枚の基本パーツでできたくす玉が、少し手を加えると、組み替えなしでそのまま立方体に変身します。基本パーツ6枚でできる立方体と大きさを比べてみましょう。

①



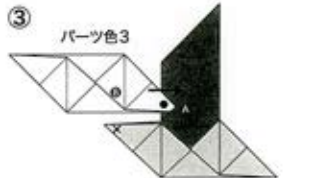
「折り目(う)」までをしっかりつけた基本パーツを3色、各4枚ずつ、合計12枚用意する。事前に線■の谷折りの折り目をしっかり強調しておく。

②



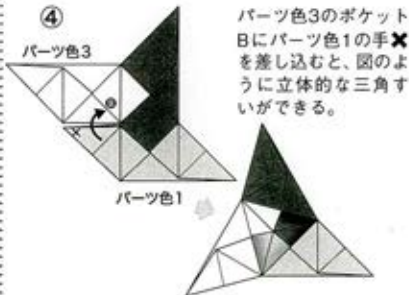
パーツ色1のポケットAにパーツ色2の手Xを上から差し込む。

③



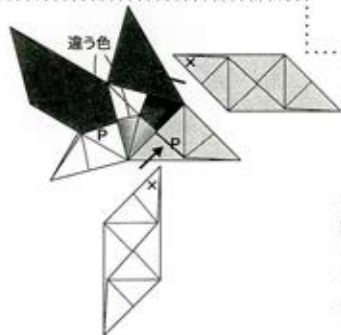
パーツ色2のポケットAにパーツ色3の手●を横から差し込む。

④



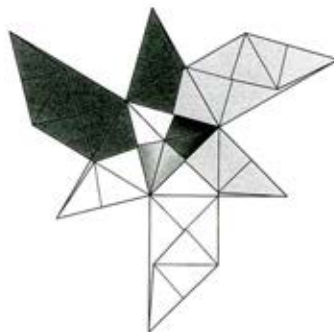
パーツ色3のポケットBにパーツ色1の手Xを差し込むと、図のように立体的な三角すいができる。

⑤



それぞれのパーツ色1~3の空いているポケット(P)に、もう1つのポケットに入っている色とは違う色のパーツの手Xを差し込む。

⑥



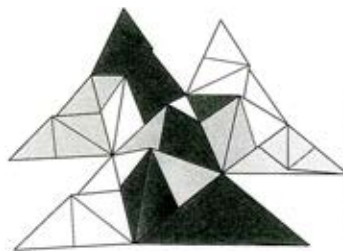
図のようになる。

⑦



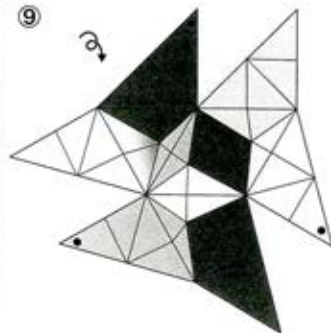
④でできた三角すいの周りに、②~④と同じ要領で、パーツを追加して、それぞれ☆を頂点とした3色の三角すいを3つつくる。

⑧



三角すいが4つできる。

⑨



パーツが外れないよう、そっと裏返す。

